

## 農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

ICTを活用し被害状況と対策の効果を可視化することで、専門家（地域おこし協力隊）と地域住民が情報を共有するとともに、データに基づく地域に適した防護と捕獲対策の提案を通じ、住民主体の対策を実施。

つしまし  
**対馬市**

（市長：比田勝 尚喜）

つしまし  
長崎県対馬市

### 主な取組

- 市は、平成25年度に地域おこし協力隊制度を活用し、「有害鳥獣ビジネスコーディネーター」（獣医師）を配置。
- GIS（地理情報システム）やGPS付きカメラなどを活用し、被害状況、柵の設置状況、捕獲の状況を可視化。地域住民と被害対策の現状を共有し、地域に適した被害対策の検討を行うことで、地域住民主導の鳥獣対策を強化。
- 被害対策に関する詳細なデータを元に、毎年島内数カ所で被害相談会を開催し、地域住民に対し地域に適した最適な防護と捕獲対策を提案。
- 島内の小中学校で鳥獣害対策に係る授業を行い、鳥獣害対策の将来の担い手を育成。
- 「獣害から獣財へ」をキーワードに、ジビエソーセージ作りやしザークラフト講座を開催し、市民の鳥獣対策への理解醸成を進めるほか、HACCPの取組が評価され、ジビエが島内の給食や島内外の飲食店、ふるさと納税の返礼品などで活用されるようになった。

【対馬市の農作物被害額】

平成24年度：約3,600万円 → 平成30年度：約400万円